



すが わら あきら
菅 原 明
(日本共産党)

●診療所の入院病床の凍結理由は ●衣川総合支所の建設を

質問

市長はこれまで、市立病院・診療所改革プラン調査特別委員会の席でも、プランの柱としてきた「水沢病院の建て替え」

「在宅医療の推進」「前沢・衣川両診療所の休床化」経営の一元化については、一貫して推し進めなければならないと話されてきた。その後、再検討されたプランを見た時、両診療所の入院病床について、地域住民から

病床を廃止しないでほしいという意見が多く寄せられたことから、休床化については一時凍結すると明記された。

住民の方はなぜ変わったのか、凍結についても、どのような考えでの凍結なのか理解しにくい。その考えは。

市長

有床診療所の休床化については、医師の負担軽減、入院患者の医療の安全対応等の視点から、改革プランの柱の一つとして検討してきたが、地域医療システムを構成している三者（医療提供者、患者、行政）のうち、患者にあたる住民の皆様から、十分な理解を得るに至っていないと最終的に判断し、今後、時間をかけて検討していくものとした。

質問

衣川総合支所建設については、これまで地域協議会と協議し、早期の建設を図るべきであると提案してきた。

災害で損壊し、入ることの出来ない庁舎が残っており、建設予定が見えないまま、臨時庁舎の状態になっていること自体が異常である。建設計画をどのようにに検討されているのか。

臨時庁舎として使っている衣川保健福祉センターを、改修する案を提示しているが、地域協議会は、施設新築を求める意見書を提出しており、両者の見解は、平行線をたどっている。提案している以上の経費の捻出は厳しいこともあり、前提条件の範囲で、話し合いをかさねていく。

市長

臨時庁舎として使っている衣川保健福祉センターを、改修する案を提示しているが、地域協議会は、施設新築を求める意見書を提出しており、両者の見解は、平行線をたどっている。提案している以上の経費の捻出は厳しいこともあり、前提条件の範囲で、話し合いをかさねていく。



フェンスが張られ、出入りできない衣川総合支所



あ べ か よ こ
阿 部 加代子
(公明党)

●子どもの予防接種に市独自の助成を

質問

WHO（世界保健機構）が子どもが接種すべきである予防接種として、水ぼうそう、おたふく風邪、B型肝炎、ロタウイルスワクチンを推奨している。

国は予防接種部会で水ぼうそう、高齢者肺炎球菌の両ワクチンの定期接種化を決定した。水ぼうそうの予防ワクチン定期接種化を受けて市の対応を伺う。おたふく風邪は合併症である無菌性髄膜炎、難聴などがあり心配される。B型肝炎はWHOが重要な予防接種として位置付け、生まれたらすぐ接種するワクチンとして指定し多くの国が取り組み、世界では3回接種が常識となっている。日本にも百万人の感染者がおり、子どもが感染するとキャリアになる可能性が高まると言われる。おたふく風邪、B型肝炎の予防接種を市独自の助成で取組むべきと考える。

市長

平成26年1月16日に開催された厚生労働省予防接種・ワクチン部会で水ぼうそう、成人

用肺炎球菌の2つのワクチンを定期予防接種に追加する事が承認された。市としても国の実施要項に基づき、水ぼうそうの予防接種については自己負担を無料として、秋から、実施出来るよう準備を進める。今回、定期予防接種とならなかったおたふく風邪、B型肝炎予防接種への対応については、国が定期予防接種化について検討中であるため、その体制が整った時点で実施する予定である。



かかりつけ医と相談し、予防接種スケジュールを立てましよう

※ロタウイルス感染症（ロタウイルス胃腸炎）ロタウイルスによって下痢や嘔吐がおこる胃腸炎。